



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	研究室報
Citation	独語独文学科研究年報, 8, 87-89
Issue Date	1982-01
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/25601
Type	other
File Information	8_P87-89.pdf



研 究 室 報

講 義 題 目 (昭 和 5 6 年 度)

学 部

独 語 学 概 論		塩 谷 饒
独 文 学 史 概 説		青 柳 謙 二
独 語 学 I	ドイツ語史の諸問題	塩 谷 饒
独 語 学 II	Politische Literatur in der Weimarer Republik	H. Wunderlich
独 文 学 II	Peter Weiss: Die Ermittlung (1965)	R. Blesch
独 文 学 演 習 (1)	Methode und System der Hegelschen Philosophie	R. Blesch
独 文 学 演 習 (2)	Einführung in die literarische Hermeneutik (1)	R. Blesch

大 学 院

独 語 学 特 殊 講 義	Einführung ins Frühneuhochdeutsche	塩 谷 饒
独 文 学 特 殊 講 義	C. F. Meyer : Der Heilige	渋谷 寿 一
独 語 学 演 習 (1)	意味論の諸相	植 木 迪 子
独 語 学 演 習 (2)	生成変形文法入門	植 木 迪 子
独 文 学 演 習 (1)	Einige moderne Erzählungen und deren Interpretation	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習 (2)	Methodenprobleme der deutschen Literaturwissenschaft	青 柳 謙 二
独 文 学 演 習 (2)	Kolloquium für Studenten des Magister - und Doktorkurses	R. Blesch

研究室行事記録

- ◎ 昭和56年は、次の3回の講演会が北大文学部第一会議室で開かれた。
- ・ 4月 9日
Jäger 教授(ブレーメン大学): Neue Aspekte der Interpretation und Bewertung von Büchners Dramen
 - ・ 9月 3日
Franz Hundsnurscher 教授(ミュンスター大学): Die Theorien der Bedeutung und die Methoden der semantischen Beschreibung
 - ・ 9月 7日~11日
Emil Skála 教授(カール大学): Frühneuhochdeutsch - Seminar
- ◎ また、昭和56年は次の研究会が北大百年記念館で開かれた。
- ・ 7月21日
神 久 聡 : ドイツ語法助動詞をめぐる諸問題、D. Wunderlich の論文から
- ◎ 昭和56年10月19日に、塩谷饒教授が還暦を迎えられた。

北海道大学ドイツ語学・文学研究会会則

1. 本会は北海道大学ドイツ語学・文学研究会と称する。
2. 本会はドイツ語・文学の発展に寄与することを目的とする。
3. 本会は上の目的達成のため下記の事業を行なう。
 - 1) 機関誌「独語独文学科研究年報」を毎年1回発行する。
 - 2) 合評会、研究会、講演会等を随時行なう。
4. 本会員は北海道大学文学部独語・独文学研究室の教官・院生(学生も含む)ならびにその趣旨に賛同する者によって構成される。
5. 本会員は上の活動の遂行のため所定の会費を支払う。
6. 本会は1名の会長と若干名の幹事をおく、幹事は会計および編集委員を兼任する。
7. 本会の会計年度は毎年4月1日に始まり3月31日をもって終わる。
8. 本会の事務所は北海道大学文学部独語独文学研究室におく。

会 員 名 簿

青 柳 謙 二	江 口 豊	◎塩 谷 饒	西 川 智 之
伊 藤 智	○小 沢 幸 夫	神 久 聡	○藤 本 純 子
伊 藤 祐紀子	加 藤 寛 蔵	瀬 川 修 二	三 浦 国 泰
石 川 克 知	川 島 淳 夫	瀬 野 文 教	山 田 恵 子
石 橋 道 大	川 東 雅 樹	高 橋 吉 文	山 田 貞 三
岩 井 洋	岸 川 良 蔵	田 中 剛	山 田 善 久
岩 田 聡	佐 藤 厚	田 中 俊 明	渡 辺 千 枝 子
植 木 迪 子	佐 藤 修 子	対 馬 晃	
梅 津 真	佐 藤 俊 一	寺 田 龍 男	

◎ 会長 ○ 幹事